産業カウンセラーとセカンドキャリア

牛久市　山田　篤

エンジニアから人の支援へのキャリアチェンジは必然だったのかもしれません。「思考は現実化する」と考え、研鑽を続けながら自分なりの人生を歩んでいきます。

研究所でスタートした製造業でのキャリア

私の社会人としての第一歩は、希望していた国内電子部品メーカーの研究所での開発業務から始まりました。当時の私は、日本産業を支えている（と考えていた）モノづくりにエンジニアとして携わりたいと考えておりました。いわゆる理系人間だった私は、人とあまり関わらず黙々と行なう仕事が自分には合っていると感じていました。研究所で新しいものを創造することに挑戦することにワクワク感があり、開発テーマの技術的問題を解決し、中量産レベルに繋げることに充実感を感じていました。

その後、米国及び英国外資系企業で働く機会にも恵まれ、業務内容に加え、どのような組織でどのような人と仕事をするのかということも大切だと感じるようになっていました。50歳を目前にして、自分のキャリアについて色々と考えるようになり、たまたま日経新聞で見つけた記事がきっかけで社会人大学院で学ぶことにしました。ゼミのJ教授の「つまるところ人と組織である」という考えに強く共感し、人材・組織マネジメント、とくにモチベーションとリーダーシップについて探求しました。会社での業務のかたわら、夜間および週末に都内に「通学」したのですが、時間管理に苦労したものの、業界や職種の違う仲間との二年間の交流は私にとって大変貴重な経験でしたし、自分のキャリアのターニングポイントとなりました。

産業カウンセラー養成講座受講のきっかけ

その後、米国外資系企業で社内認定リーダーシップ・コーチとして、通常業務のかたわら、社員の要望に応じてスポット的な、あるいは3～6カ月の継続的なコーチングサービスを提供するようになりました。認定要件を満たすためプロコーチ養成機関でコーチ認定を受けましたが、「人はもともと創造力と才知にあふれ、欠けるところのない存在である」というコーチングモデルの考え方に共感しました。また、学びの過程で「人生の目的」について内省・探求するセッションがあるのですが、そこで考えたことが現在の自分のキャリア人生の礎となっています。

社内コーチとしてデビューしたものの、コーチングの出来に自信が持てず、自分の幅を広げるための研鑽の必要性を感じておりました。そのような時、コーチング仲間から「産業カウンセラー」という資格があることを耳にしました。コーチングスキルに加え、カウンセリングの理論や心理学の基本的なことを学ぼうという思いから、産業カウンセラー協会の門をたたきました。産業カウンセラー養成講座では、受容・共感・自己一致を基本として感情をひたすら受け止めるアプローチはとても新鮮であり、毎回新たな気付きや学びを得ることができました。もともと問題解決志向が強い傾向がある私は、感情よりも事柄に対して強く反応することが多かったのですが、受講前と比べて人の話をバランスよく傾聴できるようになったと思います。養成講座を修了するにあたり、講師のAさんと将来のキャリアプランについて面談する機会を設けていただき、キャリアコンサルタント資格について伺

いました。講座受講中に会社のリストラがあったこともあり、また、自分の中長期的なキャリアについて改めて考えたいと思っていたこともあり、講座修了と同時にキャリアコンサルタント養成講習での学びに進みました。

研鑽そしてまた研鑽

価値観や考え方が異なる様々な「人」をしっかりと支援するためには、絶えず研鑽を続けていかなければいけないと考えていました。私がモチベーションを保つために心がけていることは、「スモールステップの目標を持つ」ということです。具体的には、タイミングよく関連した検定試験や資格試験合格をめざすことです。2017年の3月に産業カウンセラー試験、7月に国家資格キャリアコンサルタント試験に合格し、同時期にメンタルヘルス・マネジメント（I種）検定に合格することで、メンタルヘルス対策、キャリア形成、職場における人間関係開発・職場環境改善といった産業カウンセラー協会が力を入れている三つの領域の学習が有機的に進んだと思います。さらに、ちょうどよいタイミングで、キャリアコンサルタント養成講習の演習講師になるためのキャリアインターン育成研修募集の案内がありました。ブランドハップンスタンス理論が思い浮かびました。キャリアコンサルタント養成講習でお世話になった演習講師Iさんからのアドバイスを思い出し、講師要件である2級キャリアコンサルティング技能士検定合格を目指しつつ、研修に申し込みました。育成研修の内容自体が自分のキャリア人生について深く内省する機会にもなり、また仲間のCさんのひたむきさと明るさにはとても勇気づけられ、無事に修了することができました。

2級キャリアコンサルティング技能士検定は、先に合格していた仲間に模擬面接の協力をしてもらい、なんとか三度目で合格することができました。当初の予定より時間がかかりましたが、この間、社内コーチとしての社員のキャリア形成支援に加え、発達課題やキャリア理論についての書籍を読み、高等学校で相談業務や就職模擬面接支援なども行っていました。コーチングやカウンセリングで10代から60代の人々の話を伺ったことになるのですが、キャリア相談や進路の支援以外に高校生の恋愛相談対応などもありました。コーチあるいはカウンセラーとして学ぶことや気づくことも多く、「最近の若者事情」などについてもアンテナを立てておく必要性を感じました。

今年、キャリアコンサルタント養成講習の演習講師として4年目を迎えています。受講生のみなさんの新しい視点に気づくことも多く、まだまだ研鑽し続ける必要性を肌で感じます。昨年10月からは、産業カウンセラーの仲間の影響を受け、自己研鑽の一環として放送大学で心理学の勉強をスタートしました。様々な心理学の分野があることに驚くとともに、知らないことを学ぶ喜びを感じている日々です。

三番目のキャリア、そしてその先へ

今までの社会人生活を振り返ると、研究者としてスタートしたキャリアから人の支援をするキャリアへと、自分の興味と関心は「モノ」から「人」へと変化し行動変容につながりました。このような「キャリアシフト」は当初からは想像もできない転換ではありますが、多くの人々との貴重な出会いや自分を取り巻く状況を考えると、偶然ではなく必然だったのかもしれません。今年6月よりセカンドキャリアとして数年来考えていた、学生支援の仕事に就きました。大学の工学部学生のキャリア形成支援の仕事で、私にとって大きなキャリアチェンジとなります。今までの経験を活かし、次世代に活躍する若者のキャリア形成支援のために尽力したいと考えています。

ところで、私にとってメンターかつコーチである人生の先輩、Oさんから紹介された「思考は現実化する」（ナポレオン・ヒル）という書籍があります。600ページ以上の大作ですが、「自分が考えていることは現実のものになる」というのがキーメッセージだと捉えました。ちょうど10年ほど前、「キャリア・プラトー」といわれる状態になったときに手にしたこの本に勇気をもらい、乗り越えた経験があります。これからの「セカンドキャリア」を充実したものとするためにも、次のステップである「サードキャリア」について考えながら、人の支援という領域で自分なりの人生を歩んでいきたいと思います。